

## 【みえの遺跡紹介】松阪市 粥見井尻遺跡

粥見井尻遺跡は、櫛田川の中流域にあたる松阪市飯南町にある遺跡です。平成8年度の調査で、縄文時代草創期（約13,000～9,000年前）の遺構・遺物が確認されました。この遺跡を全国的に有名にしたのは、日本最古と思われる土偶の出土です。女性の上半身を表した全長6.8cmの土偶で、竪穴住居の中で頭部と体部が離れた状態で見つかりました。

この土偶の発見により、人々が食料の豊穰や子孫の繁栄を祈る精神文化の本格的な発展が、縄文時代草創期まで遡ることが可能となることが評価され、遺跡は平成12年に県史跡に、土偶は平成16年に県有形文化財となりました。

その他にも、矢柄研磨器や隆線文土器など、草創期を特徴づける遺物が多数出土しています。現地には復元建物が建てられており、山河の美しい景色に囲まれた当時のくらしに想像を膨らませることができます。

（活用支援課）

写真1枚目 遺跡遠景      2枚目 日本最古の土偶      3枚目 矢柄研磨器と石器  
4枚目 現在の粥見井尻遺跡の様子（2016年撮影）



